

登山月報

平成22年度評議員会開催	1
「国際認定山岳医」が誕生	3
海外登山クロニクルトークショウを終えて	5
新連載 Mountain World 第28回	6
ジュニア普及情報交換会報告	7
JMA	9
寄贈図書	10
東北地方太平洋沖地震の 義援金募金のお願い	12
編集後記	12

平成22年度評議員会を開催

日時 平成23年2月20日(日)10時33分～14時35分
会場 岸記念体育会館101～103号会議室

1. 開会

尾形事務局長の挨拶で開会

2. 会長挨拶

田中会長から創立50周年記念式典・祝賀会が無事終了した事と5期10年の在任期間中の協力に対する御礼を述べられた後、これからの新時代を捉えた公益社団法人としての組織運営に一層のご協力をお願いしたいと挨拶。

3. 定足数の確認

尾形事務局長から定款第26条に基づき、定足数並びに出席者・委任者数を発表し、会議が有効に成立した旨報告される。

定足数：32名(評議員定数47名の3分の2以上)

出席者数：評議員40名、委任状4名、合計44名

常務理事14名、理事1名、監事2名

欠席者数：評議員3名

出席者(評議員)

服部一雄(青森)、武田勝栄(岩手)、齋藤英次(宮



議事を進める広島岳連山田議長

城)、青木健一(秋田)、佐藤章一(福島)、田所洋一(茨城)、東和之(栃木)、天野賢一(埼玉)、岩崎喜司(千葉)、亀山健太郎(東京・代理)、菊池稔(神奈川)、小宮山稔(山梨)、井村健一(新潟・代理)、小林定幸(長野・代理)、開澤浩義(富山)、石森長博(石川)、塩澤寿雄(静岡)、北村憲彦(愛知)、門山信男(三重)、小木曾昭文(岐阜)、片岡幸一(滋賀)、宮永幸男(京都)、古賀英年(兵庫)、藤本直民(奈良)、小坂秀巳(鳥取)、佐々木章(島根)、妹尾東祐(岡山)、山田雅昭(広島)、岡本

東北地方太平洋沖地震のお見舞い

この度の東北地方太平洋沖地震による津波や火災にて、甚大な被害を蒙られた被災者の皆様に心よりお見舞いを申し上げます。

また、大変困難な状況の中、救援活動に携わっている方々のご努力に深甚より感謝申し上げます。

私たち全国の山仲間は、皆様の安全を祈念しつつ、この困難な状況を一刻も早く改善する救援活動に出来る限りの協力をしたいと考えております。

平成23年3月13日

社団法人 日本山岳協会
会長 田中文男

洋一（山口）、明上邦彦（香川・代理）、新田優（愛媛）、宮崎良平（高知）、山上司（福岡）、庄野章直（佐賀）、下田泰義（長崎）、西本安幸（熊本）、原勇人（大分）、古里亜夫（宮崎）、中尾敏宏（鹿児島）、田場典淳（沖縄・代理）

出席者（常務理事・理事・監事）

田中文男（会長）、内藤順造（副会長兼専務理事）、神崎忠男（副会長）、本木總子（副会長）、仙石富英（普及）、相良忠麿（財政）、佐藤光由（広報）、西内博（遭対）、長谷川茂（自然保護）、高山雅夫（競技）、寺内丈行（競技）、青木茂（国際）、谷口浩平（ジュニア）、尾形好雄（事務局）、小野倫夫（理事）、福田昇（監事）、岡本忠良（監事）

4. 議長選出

定款第25条に基づき評議員の中から北村憲彦（愛知）、山田雅昭（広島）を議長に選出。

5. 議事録署名人の選出

定款第30条に基づき、以下の2名を議事録署名人として選出。

評議員 佐藤章一（福島）

評議員 下田泰義（長崎）

6. 議事

第1号議案 平成22年度事業経過報告について

尾形事務局長より資料を事前配布しているの、詳細説明は割愛し、担当常務理事から補足説明の後、質疑を受けたい、と報告。

*小坂（鳥取）：公認スポーツ指導者表彰等の件について、決定通知は本人のみではなく、所属岳連にも連絡して貰いたい。

★報告通り承認

第2号議案 平成22年度会計経過報告について

相良常務理事から議案書に基づいて12月31日までの会計の経過報告がなされた。

★報告通り承認

第3号議案 平成23年度事業計画案について

第4号議案 平成23年度収支予算について

議長より第3号、第4号議案は関連議案なので、一括説明の後、承認を諮りたいとの提案があり、了承された。

先ず、内藤副会長より議案書に基づいて平成23年度の予算編成方針及び事業計画原案について説明。各事業計画については、各専門委員会の担当常務理事から補足説明があった。

続いて、相良常務理事から平成23年度の収支予算について説明があり、質疑に入った。

*妹尾（岡山）：昨年のJOCジュニアオリンピックカップでは日山協の推薦選手制度が導入されたが、これは今後も続くのか。3月のユース選手権大会にもこの制度は導入されるのか。

*高山（競技）：JOCジュニアオリンピックカップについては、23年度もやる方向で進めている。ユース選手権は、例年通り。（日山協推薦選手制度は導入しない）

*天野（埼玉）：第2回全国高校生クライミング選手権大会の予算について、日山協の予算措置は零と聞いたが、主管岳連が不足分を負担する訳にはいかなないので、何とか予算付けをお願いしたい。

*尾形・内藤：予算が零ではない。予算は予算書の通り230万円計上してある。先程、内藤副会長が予算編成方針で述べられたように、「新規事業はその内容及び費用対効果を十分に検討して決定する。」事が重要だ。22年度の高校生クライミング選手権大会は、50周年記念事業の一環として開催したものだ。ところが組織内で良く検討もされないうちに、「第2回大会」が一人歩きしている。230万円かかる事業ならその財源確保は、どうするのか、真剣に考えて貰いたい。9月にはワールドカップ印西大会が開催される。こちらの予算は1980万円です。協賛企業への営業活動を一緒にするなど、効率の良いフットワークでカロリーの高い協賛金獲得が望まれる。新しい事をやっていくには、汗をかいて稼がなければならない。これまでのように財源を考えず使うことばかり考えてはやっていけない。

*藤本（奈良）：高校生クライミング大会のエントリーフィーが個人4千円/人、団体5千円/校と高く、予算の約半分を参加費で賄っている。高体連の他の選抜大会でこれほど高い参加費を取っている大会はない。大会運営も主管岳連の方々がほとんどボランティアでやっている、と聞いている。この大会を継続的に続けていくには日山協のバックアップ（予算的な）をお願いしたい。それから全国的に見た場合、必ずしも岳連と高体連の関係がうまくいっている県ばかりではない。高校生クライミング大会のような大会開催を通じて高体連との連携・融和を図っていただきたい。

*古賀（兵庫）：5月に行われる「Rock Climbing OSAKA JAPAN 2011 namBa HIPS CUP」大会の協力要請が主催団体から岳連にあったが、23年度事業計画には載っていない。日山協のかかわりどうなっているのか。協力はしなくても良いのか。

*高山・尾形：この件に関しては、新年早々に大阪府

岳連からも苦情がきている。本会が知らないところで本会が競技運営するような企画書が廻されていた。この件に関しては嚴重注意を行った。その後、主催団体から後援名義の申請があり、2月の常務理事会で後援が承認された。あくまでも商業ベースの大会なので、岳連の積極的な協力は不要と思われる。

- * 岩崎（千葉）：ワールドカップ2011印西大会の特別会計について科目の内訳を教えてください。
- * 相良・尾形：収入科目でほぼ固いのは、協賛金だけで、他は必ずしも固まっていない。希望的数字を入れてある。これまではワールドカップ開催の都度、500万ほど持ち出して開催してきたが、もうこういうやり方はできないので、23年度は補助金を申請してこの分を補おうと思っている。
- * 岩崎（千葉）：印西市が300万円予算立てしている、と聞いているが、その数字はどこに入っているのか。
- * 尾形：その数字は初めて聞いた。その300万円はこの予算書には入っていない。若し、その助成金が日山協に入る金なら予算を組み直さなければならない。
- * 開澤（富山）：50周年記念特別会計の収支差額を戻す、との説明があったが、23年度の予算書ではどのように反映されているのか。それから数多くの50周年記念事業を展開したが、それらを踏まえて今後どのような事業を展開し、予算付けしていくのか、重点事業が決まっているのであれば聞きたい。
- * 相良・内藤：この特別会計の収支差額は、国民スポーツ登山振興基金特別会計に戻すので、23年度予算では繰越金には残るが、支出予算には入れてない。50周年記念事業は、幾つかのテーマを設けて行った。不特定多数の登山者を対象とした安全登山や環境保全などをテーマとしたこれらの事業は、今後、公益社団法人に向けての大きな柱となる。しかも共済会でも独自事業を推し進めようとしているので、共済会事業とも重複する。今後、日山協と共済会が協力して不特定多数の登山者に向けて安全登山教育、自然環境教育などをやっていきたい。その他は検討していない。これを契機に皆さんからご提案があれば検討していきたい。
- * 小宮山（山梨）：予算書を見て日山協が、財政的に厳しいのが良く判った。今後の展望としてお金を稼げる事業を含めてどのような事業展開を考えているのか。
- * 内藤：それには三つある。一つは事業毎に協賛企業を獲得するなど事業収入の中でやりくりする。二つ目は、日山協全体へのスポンサーの獲得。今の

ところ競技大会では理解して頂いているが、その他の自然保護や安全登山などでもご理解を頂き、協賛企業を募る。三つ目は、選手登録の拡大方策。これらをうまくまとめて原資の確保をしていきたい。

- * 古賀（兵庫）：23年度予算を見ると自然保護関連の予算が少ないのはどうしてか。
- * 内藤：これは前年対比での予算額になっている。予算編成に当っては、これからお金をどう使うのか皆で精査していかなければならない。かけるところには掛けて、絞れるところは絞って、良い予算編成をしたい。

★第3号、第4号議案は、提案通り承認

第5号議案 平成22年度理事会・臨時総会の予定について

尾形事務局長から議案書に基づき3月13日の午前中に第2回理事会を開催し、午後に臨時総会を開催する件について説明。

★提案通り承認

第6号議案 平成22年度共済会事業経過報告について

第7号議案 平成23年度共済会事業計画について

議長より第6号、第7号議案は関連議案なので、一括説明の後、承認を諮りたいとの提案があり、了承された。

尾形事務局長より平成22年度共済会事業経過報告及び平成23年度共済会事業計画について議案書に基づいて説明があり、質疑に入った。

★提案通り承認

第8号議案 会長・副会長候補者の推薦について

内藤副会長から議案書に基づいて会長・副会長候補者について説明があり、提案通り承認された。

* 会長候補者としての推薦を承認された次期会長候補の神崎忠男現副会長から挨拶があった。

第9号議案 監事候補者の推薦について

内藤副会長から議案書に基づいて監事候補者について説明があり、提案通り承認された。

* 監事候補者としての推薦を承認された次期監事候補の福田昇、岡本忠良両現監事から挨拶があった。以上で議案は、全て終了。

7. 報告事項

①公益社団法人移行への進捗について

内藤副会長より公益社団法人の移行準備状況について説明があった。

②創立50周年記念事業報告

尾形事務局長より創立50周年記念事業及び会計の報告があり、収支差額については前記収支経過報告

の通り、国民スポーツ登山振興基金に戻したいとの報告があった。

③全日本登山体育大会について

尾形事務局長より平成23年度から25年度までの開催地の報告があった。

④『山岳切手』の発行について

田中会長から資料に基づいて説明がなされ、協力の要請がなされた。

8. その他

*小林（長野）：平成23年度に創立50周年を迎え、年間を通じて記念事業を展開するので協力をお願いしたい。

*原（大分）：審判員、競技運営員、ルート・セッター等の更新手続きと登録者管理について要望がなされた。

*開澤（富山）：ジュニアのスポーツライミング大会等の表彰式で選手に渡すメダル型の型（ライミング・デザイン）を作って貰えないかとの要望がなされた。

*仙石：日本山岳遺産基金のアンケートの協力依頼があった。

9. 閉会

田中会長から平成23年度からの新体制への協力願いと在任期間中の御礼挨拶をもって閉会となった。

日本登山医学会養成の「国際認定山岳医」が誕生します

昨年5月、水上で開催された第30回日本登山医学会学術集会において、学会の認定山岳医委員会がかねてより懸案であった国際認定山岳医制度を立ち上げ、講習会をスタートさせた。この認定山岳医委員会委員長である学会理事・事務局長増山茂のリーダーシップのもと、上小牧憲寛実行委員会委員長以下学会会員医師・医療従事者からなる実行委員会は、この一年間で9つのプログラムを粛々と企画・実行し、3月5-6日の研修会を以て無事カリキュラムを終了した。各プログラムには実技が含まれ、岩の壁・沢・雪山がゲレンデとなっているから、「無事に」終えることは主催者に求められるいわば至上命令である。

いわゆる「認定医」・「専門医」は各医学会が養成し認めているものであるが、日本登山医学会の認定医制度はUIAA/ISMM/IKARが認めた山岳医学の専門医制度であり、合計151時間の座学・実技を受講し、かつ、試験に合格して初めて資格が与えられる。筆者は昨年本誌においてUIAAMedCom会議出席の報告をさせていただいたが、現在ヨーロッパを中心に7ヶ国が実施しており、8番目の日本に続いてスキャンジナビア、ネパール、北米も導入する動きがある。この制度の目的は山岳医学の臨床および研究をあらゆる面において実践できる医師を養成することである。発足した昨年5月には30数人の申請者であったが回を重ねるごとに全国から認定医を目指す医師が加わることとなり、本年1月末で申請者は60人を超えている。メディアの関心も高く、何度か報道されたことも志願者増加の一因であろうか。

2005年に中島道郎が発起人となり小林俊夫日本登山医学会会長、故大森薫雄日本山岳協会副会長、増山茂らによる国際認定山岳医制度準備委員会が発足、2008年に増山茂、上小牧憲寛、梶谷博、志賀尚子、恵秀彦らの実務者会議が設けられ、長い道のりを経て陽の目を見るに至ったものであるが、この間、日本山岳協会会長、遭難対策委員会委員長、国立登山研修所所長、日本山岳ガイド協会専務理事などなど、実に多くの山岳関係者のご支援を賜った。そして発足後、昨年、歩き出してからも実技の場で、また座学においてもご指導・ご協力をいただいた。本学会の認定医制度に関わる者として、この紙上を借りてお礼を申し上げます。さらに、継続してこそこの制度でありますゆえ、引き続き関係各位のご支援・ご鞭撻をお願い申し上げる次第であります。（敬称略）

2011/3/8 （日本山岳協会医科学委員長、
日本登山医学会理事 堀井昌子）

ネパールに行くなら、……
風の旅行社にお任せ下さい。

元々はネパールから始まった風の旅行社。ネパールに支店も構えています。専門知識と経験で、皆様をがっちりサポートいたします。

KAZE

株式会社 風の旅行社

観光庁長官登録旅行業第1382号 日本旅行業協会(JATA)正会員
総合旅行業務取扱管理者 原/小宮山

〒165-0026 東京都中野区新井2-30-4 1F.0ビル 6F

TEL.0120-987-553 FAX.03-3228-5174

〒530-0001 大阪府大阪市北区梅田2-5-25 ハービスPLAZA3F

TEL.0120-987-803 FAX.06-6343-7518

URL <http://www.kaze-travel.co.jp/> e-mail info@kaze-travel.co.jp

日本山岳協会創立50周年記念事業の一つとして「海外登山隊クロニクル・トークショウ」が日本山岳協会国際委員会と日本山岳会海外委員会の共催、毎日新聞社の後援で五回にわたって開催されました。

①The EVEREST Day 2010年4月24日（土）

国立オリンピック記念青少年総合センター

出席者 300名

出演者 日本山岳会エベレスト登山隊(1970年)
大塚隊長はじめ16隊員
田部井淳子、渡邊玉枝、重廣恒夫、
尾形好雄

②The UEMURA Day 2010年7月24日（土）

学術総合センター・一橋記念講堂

出席者 500名

出演者 田部井淳子、三浦剛太、天野和明、
栗城史多、山野井泰史 松浦輝夫、
安藤幹久、廣江研、 神長幹雄

③The EXPEDITION Day 2010年9月11日（土）

国立オリンピック記念青少年総合センター

出席者 250名

出演者 平出和也、谷口けい、佐々木大輔、
佐藤佳幸、間瀬ちがや、中嶋徹、
柏澄子

④The HIMALAYA Day 2010年12月5日（土）

国立オリンピック記念青少年総合センター

出席者 200名

出演者 平井一正、大宮求、重廣恒夫、
山口貴弘、中世古直子、池田常道

⑤The DOCUMENT Day 2011年1月16日（土）

毎日ホール

上映フィルム：日大隊北極点に立つ、マナスルに立つ、ナンダコット登山隊、ラトックI峰
エベレストへの道、エベレスト英国登山隊、未踏の氷壁・ビックホワイトピーク

出席者 250名

ヒマラヤ8000m峰は全部登られ、競技登山が隆盛、日本では「より高き、より困難……」のスポーツ登山から「より楽しく、より安全に……」と健康登山、中

高年登山ブームが生まれ、最近では山ガールなるファッション登山が流行しはじめるかたわら、若いクライマーはより卓越した精鋭登山、登れるか登れないかわからないギリギリな困難な登攀ルートの挑戦など登山が多様化してきたなかで日本山岳協会は創立50周年を迎えました。

その周年事業の一つとして、50周年のひとつの節目に過去を振り返り、現在を知り、未来に羽ばたく足がかりにしたいとの考えから、まずは過去の海外登山隊の記録をクロニクル（時系列）として見つめてみようというクロニクル・トークショウが計画されました。

ちょうど日本人が世界最高峰に登頂して40周年目にあたる年にちなみ、日本山岳会エベレスト登山1970年隊の同窓会からはじめて、この50年の海外登山隊の記録をいくつかのカテゴリー別にイベントの開催を計画実施して、最後は映像による目で見える報告として記録フィルムの上映、1月16日のザ・ドキュメント・デーで締めくくりました。

出演者や登山隊の選考、会場の確保、資料の作成、広報（案内）活動、そして当日の開催運営等、登山隊編成にも負けず劣らず困難な準備ではありましたが、日本山岳協会国際部及び日本山岳会海外委員会のメンバーの連携、努力で無事終了することができました。また出演者の理解と協力のお陰で予想以上の成果を上げることができ喜んでおります。老若男女、登山経験者、これから期待できるクライマーに至るまでこの事業を快く演出して頂いたことで、50周年事業らしい実績が残せたことに担当者のひとりとして満足しています。

とくに、毎日新聞社の献身的な支援、協力により、期待をはるかに上回る開催体制が整えられたと深く感謝しております。

各イベントの出席者をみるとよし悪しはともかく、日頃登山界で活躍したり、過去に実績を残されたクライマーの方は少なく、一般登山愛好者の出席が多かったことに、今後の登山界の発展に期待できる一面と受け止めたいと思います。

最後に、クロニクル・トークショウに関わった全ての方々の、ご支援ご協力に心より感謝申し上げます。ありがとうございました。（副会長 神崎忠男）

第28回 Mountain World

ピオレドール候補 6隊決まる

池田常道

第19回ピオレドール賞(2010年度)の授賞式は来月13日から16日、シャモニとクールメイユールで行われるが、候補となる6つの登攀がこのほど明らかになった。ヒマラヤ、カラコルムはもちろん、南極大陸やグリーンランド、アラスカなど世界の山で行われた53の登攀がリストアップされ、審査委員の投票によって6つに絞られた。受賞対象はこのなかから複数(?)えらばれる。

なお今回の審査委員会は、米国在住のオーストラリア人グレッグ・チャイルドを委員長として、フランスのヤニック・グラジアーニ、イタリアのエンリコ・ロッソ、スイスのジーモン・アンタマッテン、ドイツのミヒャエル・パウゼ、英国のリンゼイ・グリフィン、日本の萩原浩司(Rock & Snow誌編集長)で構成されている。

*

(1)フォラカー(5304m)南東壁「ドラキュラ」コリン・ヘイリー(米)とビヨン=エイヴィン・アルトウン(ノルウェイ)が6月、アラスカに拓いたルートで、標高2050mの取り付けから3000mを超えるスケールを誇る。下部は1990年に登られていたが、上部1000mの岩壁は未踏だった。ビバーク装備を持たず、ノンストップ31時間の連続行動で登頂し、スルタナ・リッジから北東面へ下降。嵐に遭ってクレバスで一夜を明かした末、71時間後にカヒルトナ氷河へ降りた。M6R、AI4+、A0。

(2)ローガン東峰(約5900m)南東壁「糸」横山勝丘、岡田康のGiri-Giri Boysペアが5月4日~8日に初登攀した。取り付けは2600mで、こちらも3000mを超えるスケールのルート。過去20年にわたって注目されながらも、下部1000mまでしか登られていなかった。ビバーク2回で東稜に抜け出して東峰頂上を往復、東稜を下って長駆BCまで帰った。ED+、WI5、M6。(Rock & Snow49号および岳人9月号参照)。

(3)ヴァスキ・パルバット(6792m)西壁 ガルワール・ヒマラヤ屈指の未踏壁。2008年にミック・ファウラーとポール・ラムズデン(英)が敗退した1600mの壁をマルカム・バスとポール・フィッグ

(英)が、10月に10日間を要して初登攀した。ニュージーランド女性パット・ディーヴォルを加えた3人で登りはじめたが、彼女は3日目に断念。残る2人は8日目に稜線に抜け、頂上を越えて北西稜を下降、取付いてから10日目にBCへと降りた。核心は7日目のミックス壁で、スコットランド・グレードでVI、7(M6相当)。

(4)ルーナクI南東峰(約6830m)南東壁「クローズ・ザ・ドア」ナンパ・ラからメンルン・ラに続く中ネ国境上の未踏峰群をルーナクと称し、I峰(6895m)からV峰(6550m)までである。マクシム・ベルヴィーユ、マチュー・ドトリ、マチュー・メイナディエ、セブ・ラテルの4人(仏)は10月にI峰南東壁を登り、南東峰に達した。10月25日から27日で壁を抜けたものの、そこでビバークした翌朝、往路伝いに懸垂下降してしまった。標高差1200m、IV/5、F5。

(5)エドガー東壁「ザ・ローズ・オブ・ノーマンズ・ランド」中国・四川省ミニヤコンカ山群のピークで、別名東コンカ(Eコンカ)。壁自体の標高差は2500mだが、アプローチのクーロワールが雪崩の危険にさらされており、2009年5月にジョニー・コップら3人のアメリカ隊が遭難したところ。ブルース・ノーマンド(英)とカイル・デンプスター(米)は11月7日~13日、寒気のおかげで氷のコンディションがよいのを利用して、南稜へと抜けるラインを登った。VI、WI5+、M6。なお2人はこれにさきだち、高所順応を兼ねてグローヴナー(6376m)北西壁の中央クーロワールを初登攀している。(岳人2011年4月号参照)。

(6)グリーンランド西岸および南部で9本の初登攀 ニコラ・ファヴレス、オリヴィエ・ファヴレス、セアン・ヴィヤヌーヴァ(以上ベルギー)とベンジャミン・ディット(米)がヨットを使ってアプローチし、7月~8月に9本の新ルートフリー・クライミングした。なかでもシーガルズ・ウォール(インポシブル・ウォール)に拓いた「デヴィルズ・ブルー」(850m、5.12+)はポータレッジを用いて11日間を要する大登攀だった。(Rock & Snow50号および岳人2011年1月号参照)。

なお、功労賞(生涯表彰)には英国のベテラン、ダグ・スコットがえらばれた。エヴェレスト南西壁初登攀やバインター・ブラック初登頂などの業績に加えて、著書『ビッグ・ウォール・クライミング』や『ヒマラヤン・クライマー』などで大きな影響を与えたことはご承知のとおり。

ジュニア・普及情報交換会 報告

2月19日（土）に国立オリンピック記念青少年総合センターにおいて、第2回目のジュニア・普及情報交換会が開かれた。これは各都道府県岳連（協会）で行っている少年少女登山教室での取り組みを紹介してもらうことで、今後のジュニア育成事業をより充実したものにすることがねらいである。

今回は、長野県山岳協会の傘木靖氏、茨城県山岳連盟の田所洋一氏、日山協の西内常務理事にそれぞれ「ジュニア登山教室」の実践報告をお願いした。また山と溪谷社の久保田賢次氏より「日本山岳遺産基金」についての説明があった。

参加者は発表者を含めて20名、13岳連（協会）。

はじめに日山協の本木副会長から「子どもたちをどんと山に連れ出しましょう。そして山の楽しさを体験してもらいましょう。」とあいさつがあり、その後報告に入った。

まず傘木氏の実践報告。2009年の報告会で広島県のわんぱく登山部の発表に刺激を受けた。様子を知りたくて、実際に広島に行き登山教室に参加をした。楽しく自由に山で遊ぶ子どもたちを見てヒントを得た。その年の秋に高瀬溪谷の湯俣足湯へ女の子5人を連れて行った。2010年の夏は、10人の子どもたちを連れて鹿島槍北俣本谷へ「雪溪を見に行こうツアー」を行った。雪溪の末端まで往復した後、河原でジングスカンパティをした。冷やしたスイカも食べた。そして10月に再び高瀬溪谷へ。この時は11人の子どもたちが参加した。子どもたちは自然という場を与えられればあらゆるものに興味を持ち自分自身で感じるようになる。「山が先生なのだ。」という言葉が印象的であった。また川嶋直著の「自然体験活動の企画運営マニュアル」の内容の



実践報告する長野山協傘木氏

紹介は参考になった。

次に茨城県の取り組み。「イバラギモンキーズ」という子どものスポーツライミングのグループを中心に、登山・沢歩き・テント生活体験など様々なメニューを行っている。これといったマニュアルがないので、何を教えたらいのか手探りで登山教室をやっている。子どもたちは読図や星座などの座学よりも沢歩きやクライミングなどが好きである。5・6年生にもなると登山をする体力は十分あるが、低学年の子どもたちにとってはまだ厳しいようだ。また親と一緒に参加すると低学年の子は親に頼ってしまい自立心が育たないので、できれば子どもだけで参加したほうがよい。大人が教えすぎないように注意したいという反省もあった。「自然に親しんでもらえればそれでよい。」という自然体験を重視するスタンスが子どもたちの自立心を育てるのである。今後の課題は指導者の意志統一をいかにして行うかということだった。

日山協の西内常務理事からは50周年事業の一つ「ジュニア登山教室in立山」の報告がなされた。こ



挨拶する谷口ジュニア委員会委員長

HANDY GPS RECEIVER & LOGGER **ATLAS** ASG-2 販売価格 12,600円(税込)

GPSでアウトドアをもっと楽しく!

最大5箇所の目的地(経由地)が登録可能。
事前に休憩場所や寄り道先のポイント設定に活用!

- 位置情報と移動情報を表示・記録 (リアルな数値情報とログ機能搭載)

株式会社 コピテル 〒108-0023 東京都港区芝浦4-12-33
お問い合わせ先: アトラス事業部 山下まで TEL 03-3769-1190
<https://atlas.yupiteru.co.jp>
※ご購入は弊社ホームページからアトラスクラブに入会(無料)し、直接購入もできます。

れも登山と自然体験、クライミング体験や立山カルデラ博物館見学、クラフトと盛りだくさんのメニューであった。立山登山では大雨に見舞われ大変な経験もした。感想を見ても、「一番頑張ったこと」と「一番つらかったこと」の両方が山登りだった。

反省は関西地区の送り込み体制を作れなかったこと。今後は教育委員会や小学校などに地道な働きかけをし、こうした登山教室を認知してもらうこと。そして小学校の時からアウトドア教室をし、また先生方が登山を学べるような安全登山教室の常設につなげていきたい。子どもたちが自然に触れる機会を与え続けるプログラムを作成するのが課題である。

最後に山と渓谷社から「日本山岳遺産基金」について。地域の人たちが守る山、次世代を育てるための取り組みに毎年300万円を助成するという事業である。昨年は山梨、愛媛の団体が助成を受けた。こうした事業を今後も続けていくので、是非、全国から応援してほしいと話があった。

2時間という短い時間であったが、その後の懇親会と合わせ実りある報告会となった。

昨年度の少年少女登山教室は20件の応募があった。今年度も沢山の応募をお願いするとともに是非こんな実践をしたという報告もお願いします。次世代のジュニアの育成のために。（記 谷口浩平）

積雪期レスキュー講習会（西部地区）報告

平成22年度積雪期レスキュー講習会が1月28日（金）～30日（日）富山県の国立登山研修所で行われた。登山研修所の独立行政法人日本スポーツ振興センターへの移管に伴い前年度より従来登山研修所で実施していた一般社会人向けの講習会を吸収し、TOTOの助成を受け、3日間の日程で実施された。

雪質観察、ビーコン基本操作などのクラス1、事故発生から搬出までのレスキュー技術などのクラス2の2コース40名を募集したが、豪雪、インフルエンザなどでキャンセルがあり、受講者30名、講師・スタッフ13名で行われた。豪雪が心配されたが、何とか閉じ込められる前に講習を終了することができたが、レスキュー講習にラッセル訓練まで加わり冬山の厳しさを感じる講習となり、講師と受講生は真剣に積雪期のレスキュー技術の習得・研鑽に取り組んだ。

クラス1は主任講師を渡邊常任委員が務め、講師に瀬藤、スタッフ渡部、岩切で受講者は17名であった。クラス2は町田常任委員が主任講師を務め、講師に大沼、スタッフ近藤、一本松で受講者は13名であった。

今回も日本雪崩ネットワークのdegawaさんに雪崩についての講義と実技指導をお願いした。degawaさんの講義はわかりやすく映像も多用し、講習生が息を呑むシーンもあった。

（この講習内容は「～山岳ユーザーのための～雪崩リスク軽減の手引き」という本の要約であり参照されたい）雪崩については第一が雪崩、雪のクラック、ワッフ音などの直接証拠、第二が雪質観察、テストなどの積雪情報、第三が気象情報である。また、テストについては手首で割れるか、腕全体で割れるかということより割れた断面がきれいかどうかの方が重要である。手首と腕の差は弱層までの伝播の差であるかも知れないので、深い方が伝播しにくく崩れにくい、崩れたら大きな雪崩になるし、弱層の上の積雪（スラブ）の厚さは場所により異なる。雪崩事故の3条件は積雪と地形と人の存在であり、積雪が非常に不安定な時や、安定の時には事故は少なく、中間の時に多い、それを避けるには雪崩地形を避けることが重要というように大変わかりやすい内容であった。

最後に閉講式が行われ各主任講師から講評があり



講習場所までのラッセル



プローブの感触テスト



雪質観察を説明する出川講師

終了したが、受講者、講師ともまず車の掘り出しから始まり、大変な思いをしながら帰途につくことになった。ピステさんの食事、広島のみなさん提供の

焼き牡蠣も大変おいしく、受講者からは大変有意義な3日間であるとの言葉も頂いた。

(遭難対策委員長 西内 博)



平成22年度2月(23年2月)
常務理事会議事録

【50周年記念募金協力者ご芳名】

(2月22日現在)

10口：大分県山岳連盟、5口：仙台けやき山岳会、2口：是枝正國、1口：本郷潤
総額：1011口・505.5万円

50周年記念募金は3月をもちまして募集を終了致します。ご協力ありがとうございました。

日時 平成22年2月3日(木)
17:30～21:00
場所 岸記念体育会館103会議室
出席者 田中会長、内藤副会長、粟飯原副会長、神崎副会長、本木副会長、西内、佐藤、高山、堀井、青木、尾形、相良、永井、長谷川各常務理事
委任 仙石、寺内、北山、谷口常務理事(18名中14名出席)

1. 専門委員会動静

1月常務理事会以降
(1月7日～2月2日)

【報告】

(1)広報委員会

- 1月11日(火) 出席者6名
- ア 『登山月報』2月号(503号)の編集について
- ・50周年記念式典・祝賀会の報告
- ・50周年事業・国際自然環境フォーラムの報告
- ・50周年事業・ザ・ドキュメント・デーの報告とクロニクル・トークショーを終えて
- ・第7回山岳スキー日本選手権大会要綱
- ・中高年安全登山指導者講習会(東部地区)報告
- ・MOUNTAIN WORLD
- ・JMA

(2)普及委員会

- 1月11日(火) 出席者6名
- ア 報告事項
- ・第1回全国高校生クライミング選手権大会について
- イ 中高年安全登山指導者講習会について
- ウ 平成22年度ジュニア登山教室情報交換会について
- エ 第50回全日本登山体育大会(福岡)について

(3)競技委員会

1月14日(金)
出席者*名

- ア 12月常務理事会報告
- ・競技委員会活動報告、ブライント・クライミング選手権、全国高校生クライミング選手権大会報告他
- イ 長崎国体正規視察、BJC会場の視察結果について
- ウ 第1回全国高校生クライミング選手権大会報告について
- エ 山岳スキー世界選手権(2/11～19、イタリア・クラウト)について
- オ ボルダリング・ジャパンカップの進捗状況について
2/26(土)～27(日) 長崎県
- カ 第7回山岳スキー日本選手権大会について 4/9(土)～10(日)長野県・梅池高原
- キ ワールドカップ印西大会2011の進捗状況について
9/17(土)～18(日)千葉県・印西市
- ク トレイルラン小委員会の進捗状況について
- ケ IAUワールドトレイルチャレンジについて(7/10)
- コ 日山協創立50周年記念祝賀会について
- サ 国体後催県の準備状況について
- シ ブロック研修会の講師派遣について
- ス 宮城県特別研修会(2/11(金)～12(土))について
- セ 山口国体の審判長、副審判長の選出について
- ソ 審判員、ルートセッター、競技運営員の登録・更新業務について
- タ 国体後催県のリード壁の施設基準の変更について
- チ 大阪ロックマスターへの日山協の係りについて
- (4)指導委員会
1月17日(月) 出席者13名

ア 12月議事録確認

イ 指導・競技委合同会議報告(12/16)

ウ 1月常務理事会報告

エ 50周年記念事業報告

オ 事務処理について

・広島岳連の対応

・日体協の入力システム

カ スポーツジャーナル取材の対応

キ 氷雪技術研修会(八ヶ岳、富士山、大山)について

ク 常任委員氷雪技術研修会(八ヶ岳)について

ケ 関東ブロック研修会について

コ 平成23年度事業計画について

サ 指導者認定申請(長野)について

(5)遭難対策委員会

1月19日(火) 出席者9名

ア 積雪期レスキュー講習会の準備

・受講者34名(クラス1:20名、クラス2:14名)

・装備類の分担確認

イ 英国調査訪問について

・5月下旬にトレッキング、登山の研修・検定があるので、調査訪問はその時期に実施予定

ウ 平成23年度事業計画について

・事業の目的とか、年度だけでなく中期的な計画が必要

・個々の事業ごとに担当を決めて委員長集中をなくす

エ 指導委員会との話し合いについて

・地方から指導、遭対共通の日山協としての技術、教育の要求が強いので、待ったなしでやる必要がある。

(6)選手強化委員会

1月28日(金) 出席者5名

ア 23年度代表選手の派遣について

あなたの保険は、 安心して登山ができる保険ですか。

自分だけは安全、と思いがちですが、
年間遭難者数は約2,000人です。

■平成20年 山岳遭難の概況

(警察庁生活安全局地域課 平成21年7月3日)

発生件数 **1,631** 件

遭難者数 **1,933** 人

死者・行方不明者 **281** 人

詳しくは → www.jma-sangaku.org

お問い合わせは

日本山岳協会 山岳共済会

事務委託：日本山岳協会山岳共済事務センター
月～金 10:00～17:00 (土・日・祝日除く)

〒170-0013 東京都豊島区東池袋 3-7-11-707
TEL: 03-5958-3396 FAX: 03-5958-3397
E-mail: sangakukyousai@mbd.ocn.ne.jp

2. その他の重要事項

(1月6日～2月2日)

〔報告〕

- (1)50周年式典・祝賀会受付準備会
1月7日(金) 於：JACルーム
神崎、本木副会長、堀井、永井、
長谷川、尾形常務理事他
- (2)アマチュアスポーツ新春懇談会
1月12日(水) 於：NHK
田中会長
- (3)第60回日本スポーツ賞授賞式
1月14日(金)
於：ホテルオークラ東京
「平安の間」 青木常務理事
- (4)50周年記念事業・国際自然環
境フォーラム 1月14日(金)
於：国立オリンピック記念青少
年総合センター
神崎、本木副会長他
- (5)創立50周年記念式典・祝賀会
1月15日(土)
於：東京プリンスホテル
田中会長他
- (6)50周年記念事業・海外登山隊
クロニクル・トークショウ「ザ・
ドキュメント・デー」
1月16日(日) 於：毎日ホール
神崎副会長、青木常務理事他
- (7)第1回全国高校生クライミング
選手権大会の反省会
1月16日(日)
於：岸記念体育会館
高山、谷口常務理事他
- (8)皇太子殿下下行啓御礼
1月19日(水) 於：東宮御所
田中会長
- (9)四国ブロック研修会
1月22日(土)～23日(日)
於：香川
松田、安形常任委員
- (10)消防防災ヘリによる山岳救助の
あり方に関する検討会
1月25日(火) 於：経済産業省
憲常任委員

- (11)平成23年度予算編成会議
1月26日(水)
於：岸記念体育会館
相良、堀井、長谷川、尾形常務
理事
- (12)レスキュー講習会(積雪期)
1月28日(金)～30日(日)
於：国立登山研修所
西内常務理事他
- (13)関東ブロック研修会
1月29日(土)～30日(日)
於：茨城
高山、永井常任委員他
- (14)第49回海外登山技術研究会
1月30日(日)
於：国立オリンピック青少年総
合センター 青木常務理事他
- (15)中高年安全登山指導者講習会連
絡会議
1月31日(月)
於：岸記念体育会館
内藤、本木副会長、仙石、尾形
常務理事

3. 議事

- (1)平成22年度1月常務理事会議
事録の承認について(承認)
- (2)平成22年度評議員会議案につ
いて(提案通りで承認)
- (3)平成22年度補正予算について
(3月常務理事会で2次補正予
算を提案する事で承認)
- (4)第50回全日本登山体育大会の
共催の件について
(北九州市、北九州市教育委員会
の共催を承認)
- (5)報告事項
ア 会計月次報告(別紙資料にて
報告)
イ 50周年記念事業について(別
紙資料にて報告)
ウ 日体協・JOC功労者等表彰
候補の推薦について
斎藤一男、田中文男、瀧島清、

堀井啓介、内藤順造、八木原罔
明氏の推薦が報告。

- エ 第3回加盟団体連絡会議兼
ドーピング防止研修会報告
- オ 山岳共済会の見舞金について
- カ 第1回全国高校生クライミン
グ選手権大会報告

4. 役員等の派遣について

- (1)山森欣一氏秩父宮記念山岳賞受
賞祝賀会 2月5日(土)
於：プラザエフ 尾形常務理事
- (2)関東地区連絡協議会
2月5日(土)～6日(日)
於：群馬県
田中会長、内藤、本木副会長、
佐藤常務理事
- (3)東海ブロック研修会
2月5日(土)～6日(日)
於：三重県
寺内常務理事、山本常任委員
- (4)近畿ブロック研修会
2月5日(土)～6日(日)
於：兵庫・明石市
永井常務理事、安形、西原、鈴
木常任委員
- (5)日本山岳写真協会新年会
2月6日(日)
於：ルートイン東京・東陽町
田中会長
- (6)無名山塾新春懇談会
2月8日(火)
於：ホテルベルクラシック東京
田中会長、本木副会長、尾形常
務理事
- (7)競技特別研修会
2月11日(木)～12日(土)
於：宮城県 山本常任委員他
- (8)北信越ブロック研修会
2月19日(土)～20日(日)
於：長野県・大町市
安形、森常任委員
- (9)少年少女登山教室報告会
2月19日(土)

寄贈図書

●雑誌●

中国登山協会 山野 1月号
山と溪谷社 山と溪谷3月号
東京新聞 岳人3月号

●会報●

日本ヒマラヤン・アドベンチャー・トラスト
(財)健康・体力づくり事業財団
(財)尾瀬保護財団
横浜山岳会
(財)日本ボウリング協会
新潟県山岳協会
愛知県山岳連盟

神奈川県山岳連盟
(社)日本武術太極拳連盟
(財)植村記念財団
信州大学山岳科学総合研究所
高校生新聞社
韓国山岳会
大韓山岳連盟
(財)日本体育協会
(財)大阪府スポーツ・みどり振興協会

日本勤労者山岳連盟
(社)日本山岳会
(財)日本体育協会
東京野歩路会
やまびこ山想会
近畿山岳愛好会
東京都山岳連盟
日本山岳写真協会

東北地方太平洋沖地震及び長野県北部地震の義援募金へのご協力について(お願い)

去る3月11日に起こった東北地方太平洋沖地震及び長野県北部地震は、甚大な被害をもたらし、多くの被災者が悲惨な日々を送っております。

本会は、日本の山仲間の皆さんに被災地の復興と被災者の救援のための義援金を呼びかけることに致しました。既に義援金等の救済援助を実施している団体がありますが、本会でも独自に募金をし、最終的に日本赤十字社に寄附することにしました。

日頃から登山を通じた国民の健康増進と青少年の健全育成を推進している本会としても、登山の普及・振興に日頃からご協力いただいている方々の惨状を救済すべく微力ながら援助をしたいと考えます。是非、皆様のご協力をお願いします。

社団法人 日本山岳協会 会長 田中文男

【義援募金送金方法】

①銀行振込み

みずほ銀行 渋谷支店
座番号 普通預金 2550591
口座名 社団法人 日本山岳協会

②郵便振替

口座記号番号 00110-5-546693
加入者名 社団法人 日本山岳協会
※ 通信欄に「地震義援募金」と記入して下さい。

③現金書留

「(社) 日本山岳協会」宛
〒150-8050 東京都渋谷区神南1-1-1
岸記念体育会館内 電話：03-3481-2396

- 於：国立オリンピック記念青少年総合センター
本木副会長、西内、仙石、谷口 常務理事
- (10)平成22年度評議員会
2月20日(日)
於：岸記念体育会館
田中会長他
- (11)財自然公園財団理事会
2月22日(火) 於：法曹会館
田中会長
- (12)日体協・JOC100周年記念実行委員会 2月23日(水)
於：岸記念体育会館 田中会長
- (13)城隆嗣顧問の叙勲を祝う会
2月25日(金)
於：リーガロイヤルホテル大阪
田中会長、本木副会長
- (14)IFS C総会
2月25日(金)～26日(土)
於：イタリア・ローマ
小日向常任委員
- (15)ボルダリング・ジャパンカップ
2月26日(土)～27日(日)

- 於：長崎
田中会長、北山、寺内常務理事
- (16)日体協スポーツドクター代表者協議会 3月5日(土)
於：岸記念体育会館
神尾常任委員
- (17)北海道ブロック研修会
3月5日(土)～6日(日)
於：深川市
寺内常務理事、山本常任委員
- (18)九州ブロック研修会
3月5日(土)～6日(日)
於：佐賀県 原、松田常任委員
- (19)財スポーツ安全協会評議員会・理事会 3月11日(金)
於：東海大学交友会館
田中会長
- (20)中国ブロック研修会
3月12日(土)～13日(日)
於：山口市
安形、西原、滝内常任委員

- 「レーカップ」の後援名義(承認)
- (2)第6回海外登山研修会・報告会(かながわ・岳人の集い2.19)の後援名義(承認)
- (3)2011年大阪ロックマスターinNambaHIPSの後援名義
後援名義料の支払条件で承認。
東商アソシエート東氏の大阪府岳連宛文書の訂正。
- (4)映画『岳』の後援名義(承認。『登山月報』への出稿依頼)
- (5)社アルパイン・ガイド協会40周年記念事業の後援名義(承認)

5. 後援、協賛等の依頼について

- (1)JFAユース日本選手権2011“ミ

6. 報告

- (1)自然保護指導員の承認なし
- (2)指導員の認定承認し
- ①主任検定員(スポーツクライミング)
江崎幸一、高橋留智亜(以上北海道)、土屋正昭(埼玉)、藤江理恵(東京)、飯田ゆか(千葉)以上5名(承認)

雨の30分前にメール
全国900か所のさくら検索
きょうの花粉チェック
 ケータイニュースサイト
NHKニュース&スポーツ
 3月限定 **315円(税込)→0円**

編集後記

マグニチュード9.0の巨大地震、大津波、さらに原子力発電所の事故、未曾有の災害にテレビの画面を見つめ何もしない無力さを感じる日々です。
 (広報 本木 総子記)

登山月報 第504号
 定価 100円(送料別)
 予約年間 1,200円送料共
 昭和45年12月12日
 第三種郵便物認可
 (毎月一回15日発行)
 発行日 平成23年3月15日
 発行者 東京都渋谷区神南1の1の1
 岸記念体育会館内
 社団法人日本山岳協会
 電話 03-3481-2396
 FAX 03-3481-2395